

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、専門学校麻生医療福祉&観光カレッジの自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
高等学校	岡本 美加	福岡県立折尾高等学校 (校長)
卒業生	能美 和則	学校法人青山学園 青山幼稚園 (理事長)
保護者	向井 秀吉	エアライン科保護者
業界関係者	北島 武	新門司フェリーサービス株式会社 (管理部長)
業界関係者	小山 勇毅	医療法人今光会 今光ホームケアクリニック (事務長)
業界関係者	星山 正光	社会福祉法人西日本至福会 (総務課長)
業界関係者	松浦 幸平	株式会社 JALスカイ九州 (総務部 部長)
業界関係者	守田 昇平	医療法人医和基会 戸畑総合病院 (事務次長)

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年7月29日（木）17：00 ～ 18：15

場 所：専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ B31教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【取り組み状況】

- ① 2020年度の入学生を最後に、募集活動を停止。学校統合の準備を始める。
学科統合に向けては、各学科での課題などを出しながら進めていった。
- ② 教員の指導力向上のため、各種研修や授業見学の準備を計画していたが、コロナ禍の中で研修が中止さらに授業見学も実施できない状況になった。
その分、オンライン授業の準備や運営を実施することになり、新しい技術やノウハウを修得することになった。
- ③ 留学生については、担任、学科、そして事務局が協力して在籍管理や進路指導を実施している。

【成果と課題】

- ① コロナ禍の中、入学式もなくそのまま休校期間を経て、オンライン授業期間を経て対面授業に戻ったが当初計画したものはほぼ実施できない状況になった。
しかしながら、学科統合に向けて各学科とも順次、準備を進めている。
- ② 指導力向上について、コロナ禍の影響でほとんど実施出来ないものがあったが、コロナ禍で今までやったことのないオンラインでの指導についてはプラスアルファ効果として教員の指導向上につながった。
- ③ 留学生についてもコロナ禍の中、十分なアルバイト収入を得られず学費に苦勞した学生や一次帰国したまま日本に戻ることが遅れた学生などはいたが、教務・事務局一体となって指導やアドバイスをして一定の成果をあげることができた。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・本校は、社会の変化に対応できる良識とスキル・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として、また一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会に貢献できる人材=グローバルシティズンを育成することを目標として、教育活動、学校運営を行っている。
- ・建学精神に基づき、教育理念、目的および育成人材像を定めている。学校構成員は、朝礼で麻生塾の教育理念「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」を唱和している。法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目標・育成人材像、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーはホームページにおいて、学内外への公表も行っている。
- ・学科毎のカリキュラム・ポリシーを見直し、学生、保護者には入学直後から浸透している。

【課題】

- ・学科毎のディプロマ・ポリシーについて、現在いる学生のみ在籍となるためその徹底が必要。

【今後の取組み】

- ・新任の非常勤講師については、採用時において学科の教育目的・育成人材像について個別説明をおこなう。

【評価委員からの意見】

意見) 適切に設定され、適切に公表されていることを確認しました。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・本校の運営方針は年度毎に経営会議の承認を得たのち、運営方針・事業計画書を教職員対象のキックオフミーティングで周知している。
- ・事業計画書については関連部署と連携して検証の上、運営方針に沿ったプランを策定している。
- ・法人としての定例会議や学内における学科会議、リーダー会議、全体会議など定期的に共有、検証の場を設け、進捗の共通理解を深め効果的な施策を実行している。
- ・人事部門と連携し適正な人事制度、規程および給与制度の運用を行っている。
- ・教員募集について、適宜部門毎のニーズをくみ取り、人事部門と連携して費用対効果を検証し対応を行っている。
- ・事務組織においては業務分掌を随時更新し運営に応じた機動性のある体制を整えている。
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点で各種対応を行っていたが、人事に関する規則面についても同様に対応を行っていった。各規則については適時共有を行い、運用整備を進めた。

【課題】

- ・特にないがコロナ禍で実施方法を対面からリモートに変えて実施。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策や働き方改革に伴い、現状の規程と実態との乖離が見られる部分が出てきている。

【今後の取組み】

- ・法人本部と連携し、イントラネット等掲載情報やスマート HR などのコンテンツの周知を図り、教職員に法改正の対応により改定が著しい人事制度、規程への理解を深め、更に法令遵守の徹底された職場環境の充実を図る。
- ・社会環境の変化と共に人事に関する制度改革が求められるフェーズにあり、2022年度からの新制度施行に向けて着手し始めている。

【評価委員からの意見】

意見) 規定に基づきコロナ禍における柔軟な運用を実施していることを確認しました。今後、ニューノーマルな社会環境に移行していく中で、規程そのものの見直しについても対応を検討されていることを確認しました。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・学科毎に教育目的および育成人材像に基づきカリキュラム・ポリシーを明示し、教職員および学生に周知している。また、教育課程編成委員会においても、育成人材像にそったカリキュラムになっているかの意見を参考に検証を継続的に行っている。
- ・ディプロマ・ポリシーに関しては、全体共通の内容になっている部分がある。
- ・厚生労働省指定規則による養成課程の学科をはじめ、それ以外の学科に関しても教育課程の編成・実施の方針に基づいて、授業科目を適切に開設している。科目とコンピテンシーの対応表は作成されているが、カリキュラムマップとして体系化されていない。
- ・教育課程編成委員に就任されている企業等の方から業界のニーズを取り入れ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を提供している。
- ・教育方法および学習指導はシラバスに基づき実施されており、受講する学生へは開講時に提示し説明している。授業内容については、授業報告書にて各クラスの担任が定期的に確認し、科目担当者との報告内容に関して必要に応じて口頭での確認をおこなっている。実施報告書記載がなされないものがある。
- ・リメディアル（導入前教育、補習）として、入学前の学生は Web で履修できる「ASO ドリル」と、学科別に専門分野に関する基礎的な課題を出している。
- ・実践的な職業教育（インターンシップ、企業と連携した実習・演習）は、事前研修、実習中指導（帰校日指導）、実習後振り返り報告会等と体系化されており、全学科で実施している。しかし当該年度はコロナ禍の影響により実習先からの受入れ中止の申し出があった業界もあるため、実習先確保や実習先での感染防止対策の徹底などが必要となる。
- ・キャリア教育を入学直後から行い、学生の社会的・職業的自立に向け基礎的基盤となる能力や態度を育成し、キャリア発展を促している。
- ・前期は、コロナ禍の影響を受けてオンライン授業に切り替えた科目が多く教育の評価が難しかった。
- ・コロナ禍でシラバスについても変更せざるを得ない事象があった。
- ・オンライン授業は、一部の科目において他の教員も学生と一緒に入るなど教育方法や指導の参考にした。
- ・コロナ禍で、検定試験の中止・実習の中止などがあり当初の計画どおり進まなかった。
- ・成績評価に関する規程および進級・卒業に関する規程によって、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、すべて「学生便覧」「学生要覧（介護福祉科）」に明記され、学生に対して入学後のオリエンテーション等の機会を通じ、周知している。
- ・全科目のシラバスにおいて、成績評価規準と評価方法は明記されて周知し、これらに基づいて適正に成績評価・単位認定を行っている。
- ・進級・卒業に関しても、進級・卒業判定会議において認定・記録され、学生管理システムに登録・管理している。

- ・厚生労働省や文部科学省などの法令や指定規則に則り、かつ学校の理念・教育目的の達成に必要な教育課程の種類・分野や学生数を考慮しながら、専攻分野を教授するために必要な教員組織を構築している。また、授業科目と担当教員の整合性や要件を、履歴書・職務経歴書・保有する資格を証明する書類などにより、確実に判断している。
- ・コロナ禍の影響への対応、及び今後の幅広く安定的な教育機会の提供のため遠隔授業実施の教員のスキルアップ向上を図っている。
- ・教員の組織体制については、系毎にリーダーを置き、医療系、観光系、福祉系の3部門に分かれた組織体制を整備している。
- ・教員の専門性や指導力などの維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげている。
- ・教員に対して指導力向上、専門力向上のために企業と連携した研修も行っている。

【課題】

- ・業界のニーズを踏まえ、より実践的なカリキュラムを適切に提供していく。また、時代に応じたカリキュラムやディプロマ・ポリシーについても在校生に対してのみ実施していくことになる。
- ・入学前の学生に関する Web 履修の「ASO ドリル」については学生の取り組みに差がある。
- ・コロナ禍の影響もあり駒シラバスの内容について変更を余儀なくされた。
- ・職業教育（主に実習）のための、連携企業の確保、及び実習先での感染防止対策の周知徹底を行う必要がある。
- ・コロナ禍で計画どおり実施できなかった点がある。
- ・オンライン授業により、授業効果に支障があるものが出た。
- ・各教員に必要な研修について、学内のみならず学外での受講を計画化する。特に学外の研修は実施数が減っていたり、予定されていたものが中止となったりしているものもあるため、研修機会の確保が難しくなっている。
- ・遠隔授業実施のための教員のスキルアップが求められる。

【今後の取組み】

- ・学科統合を1年後に控えるため、本校においてのカリキュラムの見直しは在校生のみが対象となる。業界から育成人材像については随時、聞き取りをおこなっていく。
- ・2020年度新入生を最後に、学科統合となるため、シラバスやカリキュラムについては学科毎に授業内容や学修評価方法について振り返りを行う。
- ・実習指導等で感染防止対策に関する教育を行うとともに、連携企業との実習受け入れ基準等の確認を行う
- ・オンライン授業のブラッシュアップ。
- ・コロナ禍での実習にかわる内容の検討と実施をする。
- ・引きつづき、規程に基づいておこなう。
- ・業界関連の研修については、参加者と勉強会を実施することで、共有の機会を得ることを計画する。
- ・遠隔授業実施のスキルアップのため、法人から配信されている遠隔授業スキルアップに関するコンテンツの共有、及び校長代行による遠隔授業評価等を行う。

【評価委員からの意見】

意見) 中項目3-2に、リメディアルについての記載があるが、リメディアル教育の内容について説明してほしい。

⇒「ASOドリル」(国語、数学、社会などの一般教養科目)を入学前リメディアルとして取り入れている。受講者のIT環境やデバイスが異なることが課題。専門教育を受ける前に、文意を読み取る力や、基礎学力などの背景を理解できる。入学時期によりリメディアルの教育時間に差ができています。

意見) 実習先の確保はどのようにしているか？

⇒実習先企業に受け入れ条件を確認後、実習先を確定。

実習ができない場合は、代替授業として業界OBや業界人の講話などを実施し業界理解に役立てている。2021年度の介護福祉科は、PCR検査を実施後、「陰性」を確認し実習を始めている。

意見) 小項目3-2-6「リメディアル教育を行っているか」と評価項目がありますが、「行っているか」どうかではなく、「効果的か」を評価するとより実効性があるものとなるであろうと考えます。

意見) オンライン授業への切り替えなどの対応にどうしても学生への影響に目が向きがちですが、教職員の皆様の負担増についても個別に把握していただき、個別のフォローアップをしていただくことが重要になると考えております。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・医療福祉業界の就職は、欠員採用といった求人の特性があり、担任と就職グループが密に連携を取って進めており、ミスマッチを防ぐ為の事前訪問や卒業生との情報交換を行い、個別性を重視して指導・支援をおこなっている。
- ・検定・資格試験は、授業計画に則り、プロジェクトベースで教員が関わり、進度別、習熟度別、分野別など、さまざまなアプローチで目標の合格率を出している。
- ・卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果については、企業アンケートなどにより就職担当者と教員で情報を共有し、それを踏まえて教育活動の改善に役立てるようにしている。
- ・卒業生の専門分野における社会的評価については、企業に対して在籍年数、及び卒業生に対する満足度調査票を作成し、アンケートの実施を予定している。

【課題】

- ・企業アンケートにおける、卒業生の社会的評価については分析し、指導に役立てていく仕組みづくりが必要。

【今後の取組み】

- ・企業からのフィードバックを参考に、教育活動等の改善を行う。

【評価委員からの意見】

意見) オンライン授業への切り替えなどの影響によって、学生の理解度はそれぞれの取り組み姿勢によって差が表れやすい状況下と推測いたしますので、個別の面談などのフォローアップが例年以上に重要になると考えております。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・生活面や進路に関して、多様性のある学生の在籍が増えているため、担任だけでなくチームで学生サポートを行う体制を整備している。
- ・学内に公的資格を保有したスクールカウンセラーを配置し、希望する学生にはカウンセリングを実施。また、健康面では毎年健康診断を受診している。
- ・経済的なサポートに関しては、修学支援制度、麻生進級支援制度、日本学生支援機構奨学金を全学生に案内し、支援の充実を図っている。
- ・留学生支援としては担当教員により居住状況の把握やアルバイトへの助言、更に担当職員による在留カードの更新など取り次ぎ申請も適宜行い、留学生との信頼関係を構築している。
- ・卒業生支援に対しては卒業後、再就職斡旋を希望する学生にはキャリアカウンセラー有資格者が個別に対応し再就職の斡旋を行っている。

【課題】

- ・新型コロナウイルスの影響による求人減少への対応が必要。

【今後の取組み】

- ・グループ校就職担当と密に連携を行い、幅広い業界への就職支援を実施していく。

【評価委員からの意見】

意見) 卒業後の就職支援、再就職支援については、窓口や具体的な支援について伺いたい。

⇒ 就職支援に関する卒業生からの問い合わせについては、就職担当者が勤務希望地、職種などの条件を聞き取り個別に対応している。

閉校後の問い合わせ窓口は、小倉校。医療系であれば小倉校の就職担当者、保育系、航空、ホテル・ブライダル、介護系は福岡校の就職担当者が業務を引き継ぐ流れとなっている。今年、12月にはHPにて卒業生へのお知らせを行う予定である。

意見) 留学生の進路についてお伺いしたい。

⇒ 介護福祉科は留学生5名。内訳は中国3名、ネパール1名、ベトナム人1名。全員介護福祉士として日本での就職を希望。

ホテル・ブライダル科は、留学生4名。内訳はネパール1名、スリランカ2名、ベトナム1名。ネパールからの留学生は進学を希望、他3名については日本でホテル業界への就職を希望している。

意見) 学生の皆様に対して適切な支援を実施されていることを確認しました。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・専修学校設置基準、養成施設指定規程に則り、また、教育上の必要性に対応した施設・設備として実習室や演習室を整備しており、定期的に点検・管理を行っている。
- ・視聴覚教材についても学修に必要な備品を整備している。
- ・各学科の学修目標に沿った参考図書や関連図書を備えた図書室を設置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。
- ・実習施設については、施設および実習指導者に関する要件が定められている養成課程においては、指定規則を遵守し、実習指導者会議を開催して、情報共有ならび学びの場を提供している。また、要件が特に定められていない学科に関しても、実習の環境も含め妥当性を検討し、教育体制を整えている。学外実習は、担当者と受け入れ企業との間で覚書や契約書を事前に交わし、研修内容や安全性について確認を行なっている。また、実習前研修、実習中の巡回や面談指導を行い、実習後にも振り返りや報告会を実施する体制を整備している。
- ・学校における安全管理の整備については、防火避難訓練をはじめとして適宜点検を行ない、防災・防犯のマニュアルを作成して周知している。

【課題】

- ・火災に関する避難訓練は、学生を動員して実施している。避難訓練の実施時期に関する検討も続けているが、授業時間等の制約があり、年度初めの実施ができておらず、避難経路の確認に留まっている。今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、避難訓練が実施できておらず、避難経路の確認にとどまっていることから、感染防止を踏まえた避難訓練の方法の構築が必要。

【今後の取組み】

- ・学校における安全点検については、防災訓練を定期的に行なっている。台風、大雨や地震対策の訓練など、近年の自然災害への安全対策を更に強化する。
- ・新型コロナウイルス等感染拡大防止を踏まえた訓練の在り方について検討する。

【評価委員からの意見】

意見) 施設・設備を適切に運営されていることを確認しました。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・ 出身高校への在校生情報の提供を定期的に行っている。
- ・ 本年度から募集を停止している。
- ・ 学生納付金等については、法人の財務状況などを考慮しながら適切な校納金や入学金の設定を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

- ・ 引き続き、妥当な学生納付金となっているか確認に努める。

【評価委員からの意見】

※今年度は、募集停止となっている。

意見) 募集を停止されていることから特に意見はございません。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。
- ・毎年、予算編成・計画立案に関するヒアリング後、予算計画を立てている。毎月、勘定項目および予算の執行状況を確認し、予算執行に伴う効果は管理表を元に分析・検証している。
- ・監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を理事会へ提出している。
- ・情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

- ・少子化やエリア特性により在校生が減少して収入と支出のバランスがとれていない。
- ・今年度より募集を停止しており在校生がこれ以上は増加することがない。

【今後の取組み】

- ・教育の質の担保を図るために教育研究費は適正に確保しつつ、間接経費を少しでも削減できるよう、予算計上の段階でさらに使途の透明性を図り執行管理を強化していく。
- ・今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【評価委員からの意見】

意見) 通常とは異なる収入規模となるなかにおいても、教育研究費を適正に確保するなど、適切な学校運営をされていることを確認しました。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行なっている。法令遵守に関する啓発では、職員に対して、定例会議等で周知徹底を図っている。法令に関する研修において、知識の習得に努めている。
- ・学生便覧、学生要覧（介護福祉科）にも掲載し、教職員以外の学生にもオリエンテーションを通じて、周知をしている。

【課題】

- ・法令に関する情報更新が教職員全てに熟知されているかを確認する機会の設定。

【今後の取組み】

- ・法令・専修学校設置基準研修、学則・学内規程研修を未受講の教職員には、年度当初において研修時間を確保し受講させる。

【評価委員からの意見】

意見）法令等を適切に遵守されていることを確認しました。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・毎年度、定期的に自己点検・自己点検評価を行い、実施結果に基づき業務等の改革・改善を行うことを基本方針とし、専門学校の質保証・向上への取り組みを行なっている。
- ・自己点検・評価については、企業や施設関係者、地域住民、保護者、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者評価委員会で報告している。また、改善項目については、委員の意見を取り入れた改善を行なっている。
- ・自己点検・評価報告書を作成後、学校関係評価委員会で報告を行い、改善案などの意見を取り入れ、承諾を得た後、学校関係者評価報告書をまとめ Web サイト上で公開している。

【課題】

- ・特になし

【今後の取組み】

- ・課題解決に関する計画を、次年度初めの全体会議で共有し、定期的に教務会議で課題解決の進捗状況を共有する。

【評価委員からの意見】

意見) 教育内容等について自己評価を実施されていることを確認しましたが、各項目において課題があったとしても「S」評価とされている項目の比率が高いことが気になりました。「S」評価と「A」評価の評価基準について妥当性を検証して頂く必要があると感じました。

⇒ ご指摘ありがとうございます。評価基準については自己点検報告書にありますとおり

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

になります。

今回のご指摘のとおり、評価の妥当性については上記の基準で定めておりますが、各項目の課題については重大なもの軽微なものがあり、たしかに軽微ものがあった場合でも目標達成はできており、かつ目標達成した上で達成度が標準より高い場合は「S」評価にしており、目標達成がすべてではなくほぼ達成しているものについては「A」評価としております。

そのため、最終的に課題があった場合でもあっても目標達成（+ α 項目）で「S」評価、目標達成（- α 項目）があった場合「A」評価で自己点検を実施しております。

なお、「S」評価が多くなった場合は、評価項目の目標設定を上げ更なる改善が可能なように麻生専門学校グループで評価項目の見直しを定期的に行っています。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・地域・施設への貢献、学びの還元を意図し、学校教育内容の特徴を活かした連携を図りながら、学生のボランティア活動や職業教育に係る活動を推奨している。施設やNPO法人、障害児施設でのボランティア参加はもちろん、小学校訪問なども積極的に取り組んでいる。
- ・コロナ禍の影響で、イベント等及びボランティアの募集自体も減少しているなか、近隣の市民センターと感染防止について事前打ち合わせをした後参画するなど、できる範囲での実施を継続している。またボランティア協会の依頼を受け、「海岸清掃」「門司港レトロキャンドルナイト」「小倉城竹あかり」などのボランティアにも参画した。

【課題】

- ・新型コロナウイルス等感染防止を第一とし、ボランティア活動等を実施させていかなければならない。

【今後の取組み】

- ・新型コロナウイルス等感染防止を第一とした、ボランティア活動等の在り方を検討していく。

【評価委員からの意見】

意見) 積極的に地域におけるボランティア活動に参画されていることを確認しました。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

【取組状況】

- ・各学科に在籍する留学生の指導について、担任、副担任、学生課、国際交流センターの協力を得て、相談体制を整備している。
- ・留学生からのさまざまな相談に対し、それぞれ専門の担当部署が対応している。
- ・海外への短期、長期留学など本校独自の留学プログラムを運営し、学生ならびに保護者に説明している。受け入れの学校については、海外事業開発グループの職員が視察し、教育環境、生活環境ならびに治安等についても確認を行なった教育機関に限定している。
- ・2020年度はコロナ禍の影響で、海外留学プログラムを実施することができなかったが、個人面談等を頻繁に実施し、学生・保護者の要望（復学・留学待機）をしっかりと把握。心配や不安を抱かせないように、担当者と学生・保護者とのしっかりとしたコミュニケーションを取るよう努めた。
また、各国の留学生受入れ状況を常に把握し、将来の留学の可能性に向けて常に最新情報を「留学通信」という紙媒体を通じて学生・保護者へ共有するよう努めた。

【課題】

- ・コロナ禍で、留学生の入国、日本人学生の海外留学に支障が出ている。

【今後の取組み】

- ・留学生の就職に関する相談に対しても就職課と連携をとり支援していく。
- ・留学生のアルバイト時間の管理等、基本的な法律やルールについて随時確認・指導していく。
また、就職年次については在留資格の変更指導などの適切にやっていく。
- ・在校生の海外留学については、留学の再開を待って対応する。
- ・麻生キャリアサポートや語学学校とのアグリーメントに関して、内容の見直しや業務分担の明確化を行う。

【評価委員からの意見】

意見) 自由に海外と往来することができないなかにおいて、留学生や留学希望者のサポートは例年以上に難易度が高いと推測しますが、その中でも学生及び保護者としっかりと向き合っていることを確認しました。